

新たに導入した植物の開花・結実

濱谷 修一

アヤメ科の多年草 その2

Aristea africana Hoffmgg.

原産は熱帯アフリカ。アムステルダム大学植物園マツ樹木園（オランダ）より種子を導入した。1992年10月下旬にパーミキュライトに播種し、最低3℃で管理したところ、同年11月下旬に発芽した。同年12月上旬に、ボラ土（微細粒）、赤玉土（小粒）、腐葉土の等量混合土を用いて6号駄温鉢に定植した。その後、冬季は無加温霜除けの条件下で、春～秋は露地で管理したところ、常緑の多年性を示し、1995年5月17日に開花した。

前号で報告した *A. cyanea* と同様、花茎には鞘状の苞葉があったが、あまり大きくはなかった。苞葉の基部から2～5花をつける花序を出し、花序長は5cm以下であった。開花時の草丈が約45cmで、葉長は約35cmであった。また、*A. cyanea* と比べて葉、花茎ともに細く、株全体が繊細な印象を受けた。

花の直径（最大開張状態）は約2cmで、やや受け咲き、紫色で、開花時間は午前中の半日花であった（写真1）。

花は次々と開花し、1株あたり約1ヶ月花を見ることができた。



写真1 *Aristea africana*



写真2 *Orthrosanthus polystachyus*

Orthrosanthus polystachyus Benth.

原産はオーストラリア。オックスフォード大学植物園（イギリス）より種子を導入した。1993年10月中旬にパーミキュライトに播種し、最低3℃で管理したところ、同年12月中旬に発芽した。翌年3月上旬に、真砂土、バーク堆肥の等量混合土を用いて60cm×20cmのプランターに定植した。その後、冬季は無加温霜除けの条件下で、春～秋は露地で管理したところ、常緑の多年性を示し、1995年6月上旬に開花した。

草姿は前種とよく似ていたが、前種では花茎の各節にある鞘状の苞葉の基部から数花をつけた花序を発生したのに対し、本種は苞葉を持たず、花茎の節に1花をつけた。開花時の草丈は30～40cmで、葉長は15～20cmであった。

花の直径（最大開張状態）は約3cmで、薄紫白色をしており、午前中だけ開花する半日花であった（写真2）。

花は次々と開花し、1株あたり約2週間花を見ることができた。

今回報告した2種は、前号で報告したアヤメ科2種などと共に、露地での生育状況を調査している、結果は次号で報告する。

ツリフネソウ属 (*Impatiens*) その3

1992年より、種子交換によりツリフネソウ属 (*Impatiens*) の収集を行っている。これまでにいくつかの種について栽培記録の中で報告してきたが、それ以外でこれまでに開花した種について、おおまかな特徴を紹介する (表参照)。

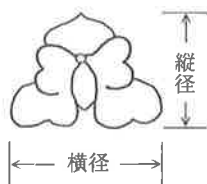
〈参考文献〉

濱谷修一 1995. 新たに導入した植物の開花・結実 *Impatiens, Aristeia*. 広島市植物公園栽培記録 16:11-12

新たに開花したツリフネソウ属の植物

種名	導入先	原産地	播種日 (年月日)	開花日 (年月)	花の大きさ ^a 横径×縦径 (mm×mm)	花の奥行き ^b (mm)	花色	花の外観
<i>I. brachycentra</i> Kar. et Kir.	ミュールハウゼン植物園 (ドイツ)	中央アジア	94.3.3.	94.4.中旬	10×10~15	10	白	写真3
<i>I. magnifica</i> G.M. Schulze	ダニエル植物園 (フランス)	タンザニア	95.6.4.	95.8.中旬	30~35×25~35	35	乳桃白~肌色	写真4
<i>I. parviflora</i> DC.	エッセン植物園 (ドイツ)	トルキスタン	92.5.7.	93.5.下旬	10×12	15~20	黄。褐色斑	写真5
<i>I. sulcata</i> Wall.	ウイズレー植物園 (イギリス)	ヒマラヤ地方	95.3.1.	95.8.上旬	45×35	30~35	乳桃白	写真6

a :



b :



写真3 *Impatiens brachycentra*



写真4 *Impatiens magnifica*



写真5 *Impatiens parviflora*



写真6 *Impatiens sulcata*